

五^ご十^{じゅう}日^{にち} 伝^で右^{みぎ}衛^ゑ門^{もん}の 十^{じゅう}七^{しち}士^しと

一般社団法人 山鹿青年会議所

この度は、私の先祖である堀内伝右衛門を登場人物として「十七士と伝右衛門の五十日」の漫画を作成いただき心より感謝申し上げます。

今回一般社団法人山鹿青年会議所の方から山鹿市と赤穂市の姉妹都市交流のきっかけとなった歴史を、山鹿市内と赤穂市内の小中学生の方々に漫画で伝えたいということでお話があり、快諾させていただきました。

私の先祖である堀内伝右衛門は、肥後藩（現在の熊本県）細川家の使番として仕えておりました。1703年（元禄15年）12月14日におこった赤穂事件（討ち入り）後に、赤穂藩の大石内蔵助氏を含め十七名の義士が細川家に預けられ切腹するまでの50日間接待役として手厚くもてなされたと記されています。接待役の際に義士からいただいた遺髪を知行地である日輪寺に納め遺髪塔を建て、義士の冥福を祈りました。その後遺髪塔は堀内組や地域の方々の手によって守り継がれております。

赤穂市と山鹿市は2002年（平成14年）に姉妹都市として提携し、2008年（平成20年）には、両市の青年会議所同士も姉妹提携を結ばれたとお聞きしております。姉妹提携を機に相互理解と信頼のもと、様々な分野で交流を図られ、両市の発展と向上のために今日まで努めておられると思います。今後もより良い関係を築いていただき次世代へ受け継いでいただきたいと思います。最後に今回作成していただいた漫画を通じてこれまで受け継がれてきた絆をより深いものにしていただき、皆様方の今後益々のご発展とご活躍を心から祈念申し上げます。推薦書とさせていただきます。

2015年10月吉日



堀内 伝右衛門氏御子孫

堀内家十三代目（御年100歳）

堀内家

十七士と 伝右衛門の 五十日



平成十四年
二月三日



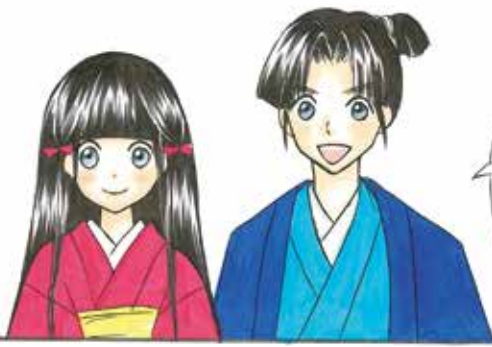
河村修山鹿市長と北爪照夫赤穂
市長が姉妹提携を結び、山鹿市と
赤穂市は友好関係ができました。

くまもとけんやまがし
熊本県山鹿市

ひょうごけんあこうし
兵庫県赤穂市

本編に入る前に
簡単にだけど

赤穂市と山鹿市の
紹介をするね



兵庫県赤穂市



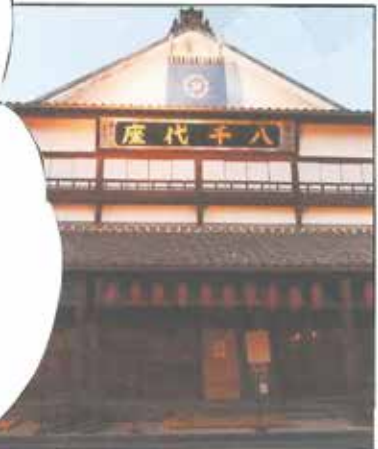
映画や舞台などで
有名な「忠臣蔵」の
ゆかりの地なんだよ！

古くから生産されている
「赤穂塩」も有名なね

熊本県
山鹿市



伝統芸能山鹿灯ろうが有名なだし一九八八年に国の
重要文化財に指定された「八千代座」には数多くの
著名人が舞台に立っているんだよ！





熊本県山鹿市に日輪寺という寺があつて、
この寺には元禄（江戸時代）の頃に
建てられた大きな遺髪塔があるんだよ。



この遺髪塔は、兵庫・赤穂市に住む
十七人の武士たちを讃えた
塔なんだってね

い
ま
今から三百年ほど前

き
ま
一七〇二年 一人の侍が江戸から

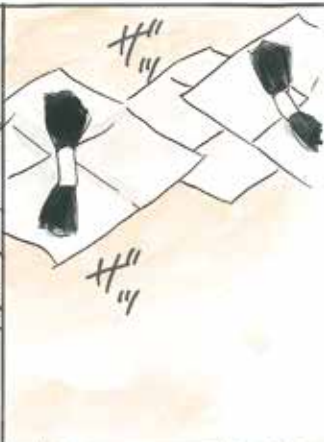
や
ま
山鹿に帰ってきた。

侍は知行地のある杉の日輪寺へいそいだ。

山門をくぐり、境内の片すみに立つと

紙の包みを取りだし、一つずついねいに

地中に納めて土を盛り、目印の石を置いた。



はあ

はあ

もし
もし

失礼と存じますが
貴殿はどちら様ですか？

それはもしや
遺髪ですか？

ばっ

申し訳ありません
住職様 無礼を
お許し下さい

私 先刻、江戸より
この地に帰って
参りました

堀内伝右衛門と
申す者でございます

ほう江戸から！
もし良ければ貴殿の話を
詳しく聞かせて頂きたい

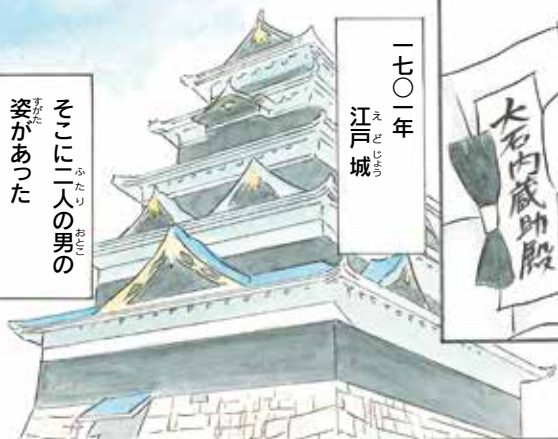
は

はい

大石内蔵助殿

一七〇一年

江戸城



そこに二人の男の
姿があった

男の名は
浅野内匠頭長矩
(当時35才)
赤穂藩の藩主である。



このころ浅野は
参勤交代の為江戸で
暮らしていた

もう一方の男の名は
吉良上野介(当時13才)

江戸幕府の名家である



この二人は、
場内において何かと
対立することが多く



…というよりも浅野は
まじめすぎて融通の
きかぬところがあり、
吉良はそこが気に入らなかった

なぜ
伊達どのに教えて、
わたしに…

わたしに…

何で…

私だけ
服がちがう

とても大事な事を教えずに
恥をかかせたりすることもあった。

一七〇一年三月十四日

この日は勅使饗応役という
とても重要な公式の
役目だった

お おのれ

吉良め…

※天皇の使いの人をおもてなしする
役割のこと

もう
ガマンならぬ!!

なっ 何をするか
浅野どのーっ

浅野のたくみのかみ
浅野内匠頭はその日の内に
切腹を言い渡され
生涯を閉じた

その知らせは
早かごにより
赤穂に届けられ

ご家老様ーっ
一大事、一大事で
ございますー!!

江戸城内で
浅野が吉良を
切りつけるという

松之廊下事件が
起きた

どうしたのだ
こんな朝早くから

あつたあつたのけしきで代から
赤穂藩浅野家城代家老
おおいしくらのすけ
大石内蔵助良雄がぞ

そ
それが…

なんだと!?

殿が
切腹された…!?

しかもその後すぐに
吉良は生きていることが
知らされー

なぜ殿だけが
こんな事に!?

あだ討ち

殿のあとを
おって切腹

城を
あけ渡さず
戦う

話し合いは三日に及んだが
まとまらずー

納得いきません
けんか両成敗が
幕府のやり方は
はずなの!!

くらのすけは城を受け取りに来た
役人に、内匠頭の弟の

浅野大学が
赤穂の藩主に
なるようお願いし、
江戸役人に
手紙を書いた

赤穂の城も幕府に
あけわたし

京都の山科へ
うつす
移り住んだ

焦りを
抑えられない
侍たちを
なだめつつ…

希望を抱き、じっと待ちつづけた

しかし事件から九ヶ月後、
吉良には何の処分も与えられず
さらに七ヶ月後

弟の浅野大学があとを継ぐことも
認められなかった

くらのすけ様

ああ…



不公平なさはきは
自分たちで正すしかない

この命に替えても
必ず我々の手で
吉良を討つのだ



江戸へ行き町人や
医者などに姿を
変えた侍たちは

吉良の動きや屋敷の
様子を必死で調べた
当初三百名近くいた
浪士たちはこのころ
五十名ほどに
しぼられていたというー



実に事件から
二年近く経っていた

ついに
この時がきたな

はい
父上

くろのすけの長男
大石主税 16才

いざ
参れ

うおおー

元禄十五年十二月十四日の夜
江戸で大事件がおこった。
もと赤穂藩の大石内蔵助ら四十七士が
主君・浅野内匠頭のうらみを晴らそうと
吉良の屋敷に攻め入った。



そしてついに—

激しい
死闘が
約二時間…



くらのすけ様！
吉良を
とらえました！！

ググッ

グッ



くらのすけ様…

父上…



この男が…
殿を…
あんな目に…！！



この男が…



成敗！！



吉良上野介…

想いをとげた内蔵助たちは、
討ち入りの後
主君のねむる泉岳寺へと向かい
全員で、今はなき主君に手をあわせ
仇討の成功をしらせました



その夜 義士たちは
四つの藩の江戸屋敷にあずけられた。
肥後細川藩には内蔵助たち十七人。
藩主細川綱利みずから義士たちを
出迎え当番のけらいにいつけた。
「もう、夜もふけてしまった。
ただちに食事の準備を」

堀内伝右衛門と申します
皆様のお世話をさせて頂きます

(当時 58 才)

赤穂藩の
大石内蔵助と申します
この度はお世話になります

私共なんなりと
お申し付け下さい

義士たちの世話をする「接待役」として
伝右衛門を含む三人の侍が選ばれた
これが伝右衛門と内蔵助の出会いとなる

ごうかな料理
本 髪結い

本

タバコ

おかし

毎日義士たちは、それは
もったいないほどの
もてなしを受けた

大石様、まだ起きて
おられましたか

おや

ええ…
気が高まっているのでしょ
うなかなか寝つけないで…

雪など…
見ておりました

私などで良ければ…

まかせて頂ければ…

義士たちも、やがて身の上話や
討ち入りのもようの話まで
するようになった。

幕府の掟にさからい
心をつにして
主君の仇を討った義士たち。
その武士らしい勇気と
生き方に心をつたれた
伝右衛門は義士たちの
討ち入りまでの
苦労話や屋敷での
くらしの様子を
くわしく書きとめていった。



そうですか…
大石様も浅野様も
同じく早くに
父上を亡くされて…



ええ…殿は確かに
わがままに育ちをしましたが

あのような形で
命を断つことに
なろうとは…

どんなに悔しかった
でしょうか…

それだけあの方は
素直で真つすくなんですよ



……

義士たちの処分について將軍綱吉は
ついに「全員切腹」を命じた。

切腹の日どりはきまつていなかった。

でも、その日が近いことを

なんとなく感じていた義士たちは

老いた母や家族に手紙を書いた。

肥後に住むゆかりのものに

手紙を書く浪士もいた。

「残された家族は赤穂をはなれ

今、京都にいます。

どうか、面倒をみて下さい」



いよいよか…



大石様



堀内殿…

大変あつかましいお願いですが
大石様のおぐし(髪)を
少しばかり頂きたく…

髪を…?

私の…知行地である
山鹿へ持ち帰りたいと
存じます

……

承知仕った

わずか五十日あまりの

おあずかりの身ではあったが

伝右衛門を身内のように

感じていた内蔵助は

その申し出を快くひきうけた。

堀内殿は「ハゼ」を
ご存じで？

「ハゼ」…？
いいえ

ハゼ（櫃）の木

ハゼの木はロウソクや

クレヨン等の主原料が採取できる。

江戸時代には西日本を中心に
もくろ（木蠹）を取る目的で

盛んに栽培されていた。

堀内殿がお国へ帰られてから
ハゼの栽培をなさつたら、
きつと藩の財政も
豊かになると思ひまして…
紙に記しておきました

ありがとうございます。

国もとに帰つたら
さつそくやつてみたいと
おもいます。

せめてものお礼です。

私共のような罪人に…
ここまでよくして頂いた…

…いいえ

大石様は罪人などでは
ありません

貴殿から伝わったものは
浅野様への真摯なる
忠誠心だけ

ただそれだけでございます

ありがとう
存じます…

貴殿のような方に
会えて…

本当に良かった…

一七〇三年
二月四日

大石内蔵助は四十五年の
生涯に幕を閉じた

義士たちの

切腹によって

接待役の役目を

終えた伝右衛門は、

まもなく京都や伏見や

大坂に身を寄せている

義士たちの遺族を

たずねあつた。

わが子が残したやさしい

ことばに目をうるませる

年老いた母親もいた

ほんとうに
本當に困もどに
帰られるのですね…

堀内殿にはまだまだ
教えて頂きたいことが
たくさんありました…

それでは…
心配はご無用

おぬしはもう充分
やっていける

達者で

きつと…堀内殿は…
遺髪を納めた塚を
再建されるのだからな

ああ…ずっと…
気にされていたものな



伝^で右^ん衛^え門^{もん}様^{さま}ーっ!!





お花を持ってきた
くれたのかい。
いつもありがとう。

お花
もってきたよー！

しかし堀内殿も
つくづく変わった方だ

侍をやめて塚のために
帰ってくるたなんて...

...大石様は死のまぎわに
私に大切な御心を
預けてくださったのです。

それはまさに
「武士の心」



決して
忘れてはなりません

それを伝えることが
私の使命なのです

受け継がれるべき
なのです...
この子達にももつと
ずっと先の未来にも

…受けつがれていく

命のようにな…

堀内殿と

大石殿の縁が

絆となつて

義士たちと別れて十年がたった。
梅迫の台地をつきぬけるように
ハゼ並木がつつく。

伝右衛門は、
やがて頭をまるめ
名も丹石とあらため
八十三年の生涯をとじるまで
遺髪塔をまもりつづけた。



一七〇三年に造立され、
十七士の命日を偲んで
二月の第一日曜日（現在は二月四日）
毎年日輪寺において行われている。

伝右衛門が亡くなつてから
遺髪塔は堀内組や地域の
方々の手によつて現在まで
守られてきた。



現在では「赤穂義士祭」といって
赤穂市内の小学生たちが義士に扮して
パレードするイベントが一九〇三年から
毎年盛大に行われているんだよ！



その他にも、両市の小学生を対象とした
剣道大会や合唱コンクールなんかも
おこなわれているんだよね！



江戸時代歴史簡易年表

徳川 將軍	家康	秀忠	家光	家綱	綱吉	家宣	家継	吉宗	家重	家治	家斉	家慶	家定	家茂	慶喜
	1600 1603	1614 1615	1633 1637	1657 1685				1716 1732	1782		1825	1837	1854 1858	1866 1867	1867
	関ヶ原の戦い 江戸幕府が開かれる	大阪冬の陣 大阪夏の陣	鎖国令発布 島原の乱	江戸の大火 生類憐みの令発布	(元禄赤穂事件発生)			享保の改革 享保の大飢饉	天明の大飢饉		異国船打払令発布	大塩平八郎の乱	日米和親条約 日米修好通商条約	薩長同盟 大政奉還	
※本誌の主な出来事は『新大石内蔵助の生涯』改定完全版を参考に作成しております。															

主な出来事

元禄赤穂事件 歴史簡易年表

1703年	1702年	1701年
(2月4日) 赤穂浪士46名切腹。 同日泉岳寺に葬られる	(2月15日) 山科会議 (4月15日) 内蔵助が妻のりくを離縁 (7月28日) 京都円山で浪士会議(円山会議) (10月30日) 内蔵助、江戸入り同士と密談 (12月10日) 吉良邸茶会の情報を入手 討ち入り決行をその日に定める	(2月4日) 浅野内匠頭勅使饗応役を拝命する (3月14日) 浅野内匠頭、松之廊下にて上野介へ切り付ける。即日切腹。 (4月18日) 御目付・御代官に浅野家再興を三度嘆願する。 (4月19日) 赤穂城明け渡し。 (6月25日) 内蔵助赤穂を去る (11月10日) 江戸会議 討ち入りを来年3月と決める。

主な出来事

山鹿温泉市街図

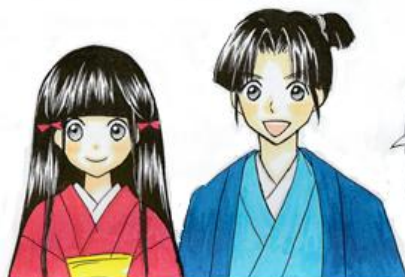


赤穂義士の遺髪塔のある
日輪寺は山鹿市内から車で
十分位のところにあるよ。

遺髪塔の他にも数多くの
装飾古墳群や歴史的な
建造物もたくさん
あるんだね。



有名地の他にも赤穂市の東にある坂越には昔の古き街並みがある。今も残ってるんだよ。



花岳寺、赤穂城、大石神社は赤穂義士ゆかりの地として有名なんだ。他にも有名地や観光地がいっぱいあるんだよ。

この本を読まれている皆様へ

古の時代に大石内蔵助と堀内伝右衛門
二人の出会いによつて赤穂市と山鹿市は
深い絆で結ばれました。

この物語は私たちが、忘れてはならない
歴史の一つであり、今後も受け継いで
いかなければならないものです。

これからもおもてなしの心をもつて
交流を続けていただくことをお願いいたします。

赤穂市と山鹿市の歴史を次の世代に
受け継いでいくのは
この本を読んでいるあなたです。



十七士と伝右衛門の五十日

- 発行日 平成27年12月10日 初版発行
- 漫画・イラスト 木村 ちぐさ(山鹿市菊鹿町出身)
- 協力者 木村 理郎 平成堀内組
- 推 薦 堀内 研一
財団法人 中央義士会
- 印刷所 株式会社 トライ
- 編集・発行所 代表者
一般社団法人山鹿青年会議所 理事長 小川 純一
赤穂青年会議所 理事長 中村 友法

◇この本に関するお問い合わせは下記まで

一般社団法人山鹿青年会議所 TEL0968-43-4114

熊本県山鹿市古閑1075-12(事務局)

※本書は山鹿市及び赤穂市両地域の交流並びに発展の為に使用されるもので、
無断転載、複製、複写、翻訳を禁じます。

十七士と伝右衛門の五十日